

# エコマーク ニュース

Eco Mark News

エコマークは(財)日本環境協会が自主的に運営している事業です。エコマークの活動予算は、すべて認定企業の皆様からのエコマーク使用料および商品認定申込者の皆様からの商品認定審査料でまかなわれています。「エコマークニュース」では、「エコマーク事業実施要領」に基づき、エコマーク事業に関する情報を提供しています。

2010.10.25 No. 82

#### 「エコマークアワード2010」募集のお知らせ

(財)日本環境協会は、エコマーク事業開始21年目を迎えた今年、表彰制度「エコマークアワード」を創設しました。本表彰制度は、エコマーク商品をはじめとする環境配慮型商品(以下、エコマーク商品等)の製造や販売あるいは普及啓発を通じて、エコマーク事業の目的である「消費者の環境を意識した商品選択、企業の環境改善努力による、持続可能な社会の形成」に向けて積極的に活動している企業・団体等の特に優れた取り組みを表彰し、広く公表することにより、エコマーク商品等のより一層の普及拡大を通じて、持続可能な社会の実現に寄与することを目的としています。第1回となる今回の募集概要は以下のとおりです。

#### 〈表彰について〉

- ・選考審査の結果、特に優れた取り組みであると認められた応募企業・団体に対し、「エコマークコミュニケーションフォーラム」(2011年2月上旬 東京開催予定)にて表彰を行います。
- ・賞は下記のとおりで、賞状および記念盾の授与を予定しています。 エコマークアワード 金賞(1件)、銀賞(3~4件)、奨励賞(2~3件)

#### 〈募集について〉

・募集対象:「エコマーク認定商品保有企業(エコマーク使用契約者)」もしくは「エコマーク商品等の普及に 貢献している企業、団体 I

·募集期間: 2010年10月18日(月)~11月30日(火) (消印有効)

◆応募方法、選考方法、スケジュール等の詳細については、ホームページ(http://www.ecomark.jp/award2010.html)をご覧ください。

#### 認定基準に関するお知らせ

#### 認定基準の制定

以下の認定基準が制定されましたので、お知らせいたします。

類型番号		商品類型名	制定日	有効期限
	146	まほうびん Version1.0(新基準)	2010年9月1日	2017年8月31日

◆認定基準は(http://www.ecomark.jp/nintei.html)をご覧ください。

#### 〈認定基準制定の背景〉

#### ■商品類型 No.146「まほうびん Version 1.0」

近年、消費者の環境意識や節約志向の高まりから、 ステンレス製まほうびんの携帯用ボトルや、弁当用ジャーを持ち歩く人が増えており、ファッション性など でも話題を呼んでいます。こうした行動は、マイバッグ持参運動のように、一人ひとりが実行できる身近な環境配慮行動です。 (次ページに続く)

「まほうびん」の認定基準は、湯沸かしや調理など にかかるエネルギー消費量の削減につながる断熱性の 高い調理器具にエコマークを付与して消費者に推奨す ることにより、国民一人ひとりの環境に配慮した行動 につなげていくことを目的としています。

# 認定基準案の公表およびパブリックコメントの受付

以下の認定基準案の公表およびパブリックコメントの受付を行っていますので、お知らせいたします。

類型番号	商品類型名	公表期間(30 日間)
新規	損害保険 Version 1.0 分類 A 自動車保険	2010年9月30日~2010年10月29日

◆認定基準案、パブリックコメントの受付については(http://www.ecomark.jp/nintei2.html)をご覧ください。

### 認定基準の改定

以下の認定基準の軽微な改定を行いましたので、お知らせいたします (Version は改定前のもの)。

類型番号	商品類型名	改定日	改定のポイント
144	革製衣料品・手袋・ベルト Version 1.0	2010年9月1日	帽子の革材料における強度・耐久性基準については、 「伸び」の適用を除外

◆改定点の詳細については、(http://www.ecomark.jp/econews.html#no82\_2) をご覧ください。

#### 委員会報告

#### 基準審議委員会(第2回)

第2回基準審議委員会が2010年8月30日に開催されました。審議・報告事項は以下のとおりです。

#### 〈審議事項〉

- 1. エコマーク商品類型 (認定基準) 案について (P.2 参照)
  - (1)「損害保険 Version 1.0」
- 2. エコマーク商品類型 (認定基準) の軽微な改定について (P.2 参照)
  - (1) No.104「家庭用繊維製品 Version 2.7」

- (2) No.117「複写機 Version 2.8」
- (3) No.144「革製衣料品・手袋・ベルト Version1.0」

#### 〈報告事項〉

- エコマーク商品類型 No.146「まほうびん Version
  の基準制定について (P.1 参照)
- 4. 日韓の相互認証の契約締結について (P.4参照)
- ◆資料等詳細は (http://www.ecomark.jp/econews. html#b82) をご覧ください。

# 運営委員会(第25回)

第25回運営委員会が、2010年10月1日に開催されました。報告事項は以下のとおりです。

#### 〈報告事項〉

1. 平成22年度エコマーク事業の進捗状況について (報告)

- 2. 平成21年度エコマーク事業収支決算報告
- 3. エコマーク表示方法の見直しについて
- 4. 表彰・講演会の開催について (P.1 参照)
- ◆資料等詳細は (http://www.ecomark.jp/unei\_info.html#25) をご覧ください。

#### 新認定商品のご紹介

### エコマーク認定のプロジェクタが市場に登場

近年、プロジェクタはビジネスや教育現場での活用機会が増えるとともに、一般消費者向け市場でもホームシアターなどの用途で利用が広がっています。しかし、省エネラベリング制度やグリーン購入法など国内の規格や法令等の対象となっていないため、省エネ性能等に関する環境基準が設定されていません。

こうした状況を踏まえ、エコマークでは消費電力低減のほか、省資源設計、有害化学物質の使用抑制など、製品のライフサイクル全体の環境負荷低減の観点から認定基準の検討を行い、2010年7月に新規商品類型No.145「プロジェクタVersion 1.0」を制定しました。これを受け、本商品類型において2社の認定商品が誕生しました。

#### ■6機種が第1号認定を取得――エプソン販売(株)

エプソン販売(株)では、消費者が環境配慮商品を容易に識別・選択できる表示としてエコマークを重視し、これまでプリンタやトナー/インクカートリッジなどにおいて認定を取得してきました。こうした考え方に立ち、プロジェクタの認定基準が制定されたのを機に、6機種の製品について本商品類型として最初の認定を取得しました(認定番号10 145 001~006)。

今回認定を取得したプロジェクタは、待機電力の低減をはじめとする省エネ性、外装ケースにおけるハロゲン系難燃剤の不使用、外装ケースの一部無塗装などの面で環境配慮を行うとともに、商品の小型・軽量化により資源消費や輸送時、使用後における環境負荷の抑制を図っています。商品のコンパクト化と光利用効率などの機能面や環境性能をいかに両立させるか、といった課題をクリアし、エコマークの認定取得に至りました。

同社では、オフィス機器等の環境配慮に対するユー



エコマーク認定のエプソン「オフィリオ プロジェクター EB-1775W」

ザーのニーズを背景に、商品選択におけるエコマークの重要性が高まっているとの認識から、今後も環境負荷の少ない製品の開発に注力するとともに、エコマークの認定取得に積極的に取り組んでいく考えです。

◆エプソンのビジネスプロジェクタのウェブサイト http://www.epson.jp/products/offirio/emp/

#### ■非水銀ランプ光源を開発——カシオ計算機(株)

これまで、ソーラー電卓やプリンタなどにおいてエコマーク認定を取得しているカシオ計算機(株)では、このほど2機種(8モデル)のプロジェクタについて認定を取得しました(認定番号10145008~009)。

同社では、プロジェクタが紙資源の節約などの面で 環境負荷低減効果が期待できる一方で、光源のランプ が有害物質である水銀を含んでいる点に着目し、従来 の常識を覆す「非水銀ランプ光源」を用いた高輝度プロジェクタの開発に取り組みました。

水銀フリーの光源の実現には、レーザー、LEDなどの半導体光源デバイスの採用が不可欠となります。会議や授業などでの使用に求められる高輝度を確保するためには、色の三原色(赤、青、緑)の中でも最も明るさに寄与する緑色光の高出力化が極めて重要であり、同社では試行錯誤を重ねた結果、独自の技術により半導体光源による高出力の緑色光を実現しました。

認定を受けたプロジェクタは、水銀フリーや光源寿命の長さ、商品の小型・薄型化などの特長から、環境問題に積極的に取り組んでいる法人ユーザーなどから高い評価を得ており、同社では今後、製品ラインアップの拡充を図るとともに、環境配慮のさらなる充実とエコマークの取得に力を入れていく方針です。

◆カシオ計算機(株) のプロジェクタのウェブサイト http://casio.jp/projector/



エコマーク認定のカシオ計算機(株) 「グリーンスリムプロジェクター XJ-A155V」

#### お知らせ

# エコマーク — 韓国環境ラベル 相互認証を本格スタート

エコマーク事務局は8月18日、韓国環境ラベルを運営する韓国環境産業技術研究院との間で、「複写機/ プリンタ」分野における相互認証協定\*を締結しまし



相互認証協定の調印式の様子

た。本協定の締結に基づき、日本国内での「複写機/ プリンタ」に関する相互認証申込受付を9月1日に開 始しました。

また両者は、相互認証の手順および運用の規則に関する合意書も締結しました。これにより、日韓の環境ラベルの相互認証が本格的にスタートすることとなり、両国の企業による、相手国の環境ラベルの認証取得の促進が期待されます。

詳細については (http://www.ecomark.jp/sougo. html) をご覧下さい。

\*相互認証協定(Mutual Recognition Agreement: MRA)について

相手国の環境ラベルの審査(もしくはその一部分) を自国の環境ラベル機関で実施することを可能とす る、二国以上の国の間で締結される協定。

# 「エコマーク表示」に関するアンケートの結果

去る7月、エコマーク商品/支払担当者の皆様にご協力をお願いしました「エコマーク表示」に関するアンケートに、多数のご回答をいただきありがとうございました。アンケート結果を踏まえ、マーク表示方法

について検討を進めています。アンケートの結果は、(http://www.ecomark.jp/pdf/enquete\_100831.pdf) に掲載しています。

# エコマークメールマガジンのご案内

エコマーク事務局では毎月1回、メールマガジン「エコマーク広報」を配信しています。「エコマーク広報」には、エコマークの認定基準や使用契約に関するお知らせをはじめ、会議・イベント情報や関係団体か

らの告知など、幅広い情報を掲載しています。

ご購読を希望される方は、エコマーク事務局ホームページ (http://www.ecomark.jp/eco\_mail/index.html) より登録をお願いいたします。

#### エコマークニュース 第82号 2010年10月25日発行

編集・発行/財団法人 日本環境協会 エコマーク事務局

〒 103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町 1-4-16 馬喰町第一ビル 9F TEL: 基準・認証課 03-5643-6253 FAX: 03-5643-6257 (各課共通)

総務・契約監査課 03-5643-6255 普及・国際協力課 03-5643-6255

エコマークは (財)日本環境協会の登録商標です。